



ボードにけいそう土を塗る作業を体験する児童たち

昨年設立50周年を迎えた洞爺湖町商工会青年部が、記念事業として、職業体験学習と「縄文の森」植樹体験を11月3日

母と子の館で行い、小学生約20人が、左官、電気工事、麵づくりの各仕事を体験しました。

左官体験では、けいそう土を使ったコースター作りや石こうボードにけいそう土を塗る作業を体験しました。

参加した児童らは「難しかったけど、楽しかった」と話しました。

職業体験に先立って、高砂貝塚で植樹が行われ、ドングリとミズナラを計5本植樹しました。

まちの仕事を知ろう！ 児童らが職業体験

基礎学力の向上をめざして 第2回未来塾開催

第2回地域未来塾（町学校支援地域本部実行委員会、町教育委員会主催）が、11月14日母と子の館で行われ、町内の小学生32人、中学生14人が参加して、学力向上に向けて熱心に学びました。

小学生向けのプログラムでは、国語と算数の2科目で習熟度別のテキストを使い、基礎学力のアップを狙い実施しました。

中学生向けプログラムでは、3年生を対象に、専門の講師や現役大学生が、国語、数学、英語の3科目で



真剣な表情で学習する中学生

受験に向けて実践的な指導を行いました。

縄文生活を体験 焚火で鍋料理

11月21日高砂貝塚で、洞爺湖ビジターセンター・火山科学館の自然ふれあい行事「縄文焚火」が行われ、参加した4人が公園内にある復元された竪穴式住居の中で焚火を行い、縄文時代の鍋を再現し、縄文人の生活を体験しました。

同センターの佐々木伸さん、安藤達哉さんと教育委員会角田学芸員が講師となり、当時の鍋の再現に取り組みました。サケ、カジカなどの海産物とスルメ、鮭とば、昆布などから取っただしを鍋に入れ、よく焼いて真っ赤になった石を鍋に投入。一瞬で沸騰して調理



焚火を囲んで縄文について語り合う

が完了し、熱々の鍋を試食しながら縄文人の生活について講和を受けました。



体力テストで時間往復走をする児童たち

自分の運動能力を知り、体力づくりに役立てようと平成27年度町民体力テスト会

（洞爺湖町スポーツ少年団主催）が、11月23日あぶた体育館で開かれ、水泳、野球、剣道などの少年団約50人が参加して立ち幅跳び、上体起こしなど5種目に取り組みました。

一方洞爺湖スポーツクラブ主催の町民体力テストも同時に実施され、62～88歳の約20人が片足立ちなど6種目に挑みました。

最後に、到達点に合わせて、一人ひとりに1級から5級までの合格章が手渡され、自分の運動能力を再確認しました。

町民体力テスト会 自らの体力を確認

